

プレスリリース
報道関係各位

2026年2月4日
公益財団法人日本交通文化協会
あいの風とやま鉄道株式会社

あいの風とやま鉄道・富山駅 中央改札口横に大型パブリックアート設置

ミナ ペルホネン デザイナー 皆川 明
初のステンドグラス原画・監修

『生命の根 (いのちのね)』

富山の自然の恵みを表現した原画を初公開



原画 皆川 明

公益財団法人日本交通文化協会（所在地：東京都千代田区、理事長：滝 久雄／以下、日本交通文化協会）とあいの風とやま鉄道株式会社（本社：富山県富山市、代表取締役社長：伍嶋 二美男）は、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受け、あいの風とやま鉄道・富山駅 中央改札口横にステンドグラスによるパブリックアートを設置します。設置に先立ち、本パブリックアートの原画を初公開します。

本企画は、作品が駅を利用する方々や富山を訪れる人々の目にふと留まることで、その時々的心境に寄り添い、日々の活力や元気を見出せるような場になることを目指しています。地域の記憶となり風景に溶け込みながら、地域内外の誰もが親しめる開かれた存在として、富山の日常を長く豊かに彩り続けることを願っています。

原画・監修は、ファッション・テキスタイルブランド「ミナ ペルホネン」デザイナーの皆川 明氏が務めています。皆川氏は、自然や記憶、想像を息づかせるテキスタイルデザインで知られ、長く使われ時を重ねるほどに価値を育むものづくりを続けています。富山市立富山ガラス造形研究所での特別講師として学生たちと向き合い、富山の地域や素材への理解を深められてきたご経験もあり、本作を手掛けていただくこととなりました。なお、皆川氏にとってステンドグラスの制作は、今回が初めてです。

作品のタイトルは『生命の根（いのちのね）』です。富山に息づく自然や美しい景観、工芸などの有形無形の文化資産を、住む人や訪れる人々が大切に想える環境であってほしいという願いが込められています。原画には、富山の空、海、山、そして土地と、あらゆる自然環境からの恵みが湧いてきて、根のように広がり暮らしに繋がる姿が描かれ、そこから生まれる恵みがこの土地を支えて守ってくれることをイメージしています。

本パブリックアートは、日本交通文化協会による 564 作品目の企画となります。縦 4.5 メートル、横 3.9 メートルの大作で、クレーレ熱海ゆがわら工房のステンドグラス職人たちによって製作が進められています。2026 年 3 月の公開を予定しています。

大型ステンドグラス「生命の根」作品概要

- | | |
|-------------|--|
| ■ 当事業の目的 | ①ミナ ペルホネン デザイナー 皆川 明氏の原画をもとにしたステンドグラス作品によるパブリックアートの普及を追求
②パブリックアートを通じて気軽に芸術に慣れ親しむことで、人々の心を和ませ元気づける空間を創出
③富山の自然や文化に理解があり縁をもつ原画作家の作品を設置することで、地域の活性化や観光資源の開発に貢献 |
| ■ 設置場所 | あいの風とやま鉄道 富山駅 中央改札口横 |
| ■ 規模と仕様 | 縦 4.5m ・ 横 3.9m |
| ■ 原画・監修 | ミナ ペルホネン デザイナー 皆川 明 |
| ■ 作品タイトル | 生命の根（いのちのね） |
| ■ 企画 | 公益財団法人日本交通文化協会 https://jptca.org/ |
| ■ ステンドグラス製作 | クレーレ熱海ゆがわら工房（静岡県熱海市泉 230-1） |

■ 原画作家プロフィール



皆川 明（みながわ あきら）

ファッション・テキスタイルブランド「minä perhonen」創設者、デザイナー

1995 年に「minä perhonen（ミナ ペルホネン）」の前身である「minä」を設立。ハンドドローイングを主とする手作業の図案によるテキスタイルデザインを中心に、衣服をはじめ、家具や器、店舗や宿の空間ディレクションなど、日常に寄り添うデザイン活動を行っている。国内外のテキスタイルブランドへのデザイン提供、新聞・雑誌の挿画なども手掛ける。2006 年毎日ファッション大賞、2015 年毎日デザイン賞、第 66 回芸術選奨文部科学大臣新人賞、2025 年毎日ファッション大賞選考委員特別賞受賞、フィンランド獅子勲章騎士一級章受賞。

本パブリックアートは、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受けて整備されています。



＜参考資料＞

■パブリックアート創作拠点

クレーレ熱海ゆがわら工房（静岡県熱海市泉 230-1）

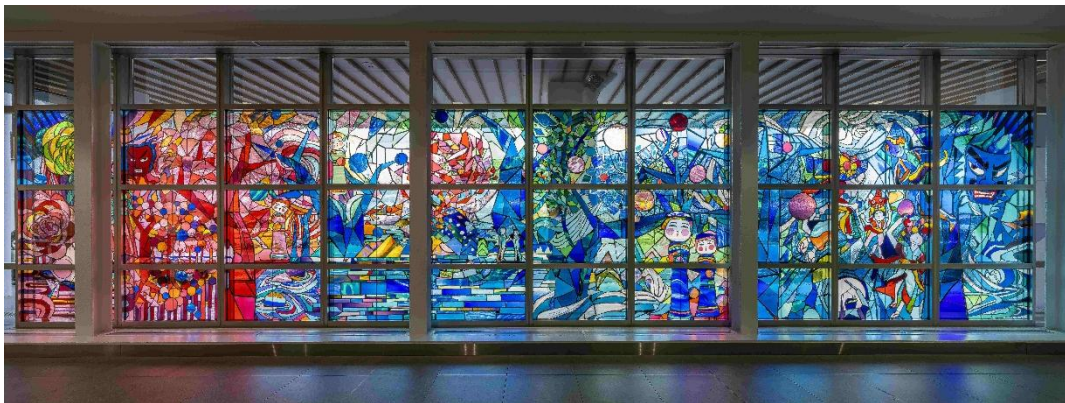
日本交通文化協会は、芸術文化の振興および環境芸術推進活動の一環として、熱海と信楽においてステンドグラス、陶板レリーフ、彫刻、モニュメントなど、パブリックアートの研究や制作支援を行っています。建築家・隈研吾氏の設計によるクレーレ熱海ゆがわら工房は、釉薬研究施設や焼成サンプル室、ステンドグラススタジオ、ショールームなども完備され、数多くのアーティストとのコラボレーションが展開される第一級のパブリックアートの創造拠点です。



■日本交通文化協会がこれまで企画したステンドグラスによるパブリックアート（設置した一部）



「生命の旅」（2024） 大阪モノレール 大阪空港駅（大阪府） 原画・監修／ヤノベ ケンジ氏



「青の森 へ」（2021） 青森空港（青森県） 原画・監修／森本 千絵氏



「ZOMEKI -悠久の二拍子-」（2022） 徳島阿波おどり空港（徳島県） 原画・監修／竹宮 恵子氏



「妖怪たちの森」（2016） 米子空港（鳥取県） 原画／水木 しげる氏 監修／水木プロダクション

※上記のパブリックアートは、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受けて整備されています。